

interview

来場者



高山欣也さん（静岡市）

国民文化祭のパンフレットで、神楽フェスティバルの記事を見てこれだと思いました。すぐにこちらの観光協会に問い合わせたんですよ。わたしは写真が好きで、今回面白い写真が撮れたらいいあと期待しています。2日間こちらに滞在して、神楽の世界を満喫しています。

interview

来場者

山崎隆夫さん、飯田収さん（静岡市）



わたしたちは、1日目に偶然席が隣同士になった縁で仲良くなりました。神楽フェスティバルは、普段見ることができない全国各地の神楽を多数見ることができる貴重な機会。とても楽しく拝見しました。1日目の最後を飾った田代神楽保存会の「狩人」。あれは最高ですね。地域の大切な宝として今後も残してほしいですね。

interview

ボランティアスタッフ



榎原さつきさん（水川・写真右から3人目）

わたしはこういったイベントでは、観客としてよりもスタッフとして参加の方が好きなんです。いろんな人と会ったり、話ができたり、運営の裏側を見ることができたり。みんなできっていく楽しさもありますよね。何より終わったときの達成感は何ものにも代え難い喜びです。神楽フェスは初めての開催ということで、段取りなど戸惑うこともありました。でも最後に、来場された方が「ありがとう」って声をかけてくれたんです。この催しに参加して、本当に良かったなあと考えた瞬間でした。

笹間神楽の優雅な舞



梅津神楽 太刀を激しく振り回す



福餅まきを終えて



相模里神楽垣澤社中の迫力のぬえ退治



# そして深まる人々の絆

国民文化祭しずおか2009神楽フェスティバル  
PhotoReport 10・25sun▶26mon



2日目トップバッターの津野山神楽「山探し」。金山彦の使いの神（般若の面）が、なくなった宝剣を探するため舞台上を練り歩く。無事宝剣を見つけ出すと、宝剣を振り回し喜びを身体全体で表現した。会場には一斉にカメラのシャッター音が響いた。

2日目（26日）

舞台を再び、本川根小体育館に移して開催された2日目。館内は、大勢の来場者や招待された小中学生などであふれかえった。

2日目は9団体が神楽を披露。全国各地に伝わる神々の舞が、舞台狭しと繰り広げられた。2日間続けて最前列でカメラを構える高山欣也さん（静岡市）は開演前、「昨日に引き続いて来ました。面白い写真が撮れたらうれしいですね」と話していた。

オープニングは高知県梶原町の津野山神楽保存会による「山探し」。般若の面を付けた金山彦の使いの神が、宝剣を探して不安げに歩き回る。来場者は固唾をのんで、その姿を見守った。

このあと、遠く青森県から来町した中居林太神楽が登場。大人と子どもで構成される獅子舞が、舞台を降りて会場内を練り歩く。来場者からは「こつちにも来て」と声が上がった。

各地の特色ある神楽が披露され、最後に舞台上上がったのは梅津神楽保存会。がったのは梅津神楽保存会。豪快に刀を振り回す八王子の舞や、地元中学生女子3人の姿もしなやかな八幡の舞、迫力ある面の鬼の舞など3演舞を披露。会場内に拍手の音が響き渡った。

今回の神楽フェスティバルは、神楽を披露し合うだけではなく、伝承する者同士との交流も深まったと、徳山古典芸能保存会の山下忠之さんは言った。

「梶矢神楽団は所在地を安芸高田市高宮町川根といい、ここと同じ名前なんです。その縁もあり以前お邪魔したことがありました。今回梶矢神楽団の皆さんは、特産品のゆず製品を持参してきてくれました。そういった全国の神楽保存会の皆さんと話ができて、交流を深め合うことができました。」

神楽が生んだ、さまざまな「絆」の形。それは人と人を結び、地域と地域とを結び付けていた。全国各地で大切に守り伝えられている神楽。「交流」という、新たな可能性が見えた2日間だった。

# 舞い降りた神々

梅津神楽保存会（川根本町）

笹間神楽保存会（島田市）

口坂本・横浜・大日神楽保存会（静岡市）

相模里神楽垣澤社中（神奈川県）

中設楽花祭り保存会（愛知県）

赤石太鼓保存会（特別出演）

井川神楽同志会（静岡市）

備中神楽成羽保存会（岡山市）

中居林太神楽（青森県）

榎原町津野山神楽保存会（高知県）

